

アッラーの愛するしもべである皆様！この世界にある全てのものは全てがアッラーの作品です。険しい岩場を持つ山々、力のみなざる川、野生の森林、人の命令に従う動物たち、栄養の源となる植物、そして一つ一つ数え上げることのできないこの他のあらゆる被造物は、アッラーのお力を示しています。信仰を持っていてもいなくても、多くの人は日々の生活の流れの中で、この力に触れ、評価し、アッラーを知ることから遠ざかっているのです。

先週、おそらくはほとんどの人が初めて体験する恐ろしい地震がありました。本来、人類全てが無力であるこの驚異的な出来事もまた、アッラーのお力を証言するものです。地球が大声でこの証言を行っている際、信仰する人は即座にアッラーを思い、「そうです、わが主よ。力と尊厳の主はあなたです。慈悲と許しの源もあなたです。」と言い、信仰告白、アッラーの唯一性を証言する言葉、許しを乞う言葉を唱え続けるのです。

大切な兄弟姉妹の皆様。地震は本来、その瞬間までそれほど近く感じていなかったもう一つのものを私達に思い起こさせました。最後の審判の日です。クルアーンの言葉を借りるなら、「その時、大地は大揺れに揺れる。」（出来事章第4節）「天が溶けた銅ようになる日、山々は、梳いた羊毛のようになり」（階段章第8-9節）「大地が延べ広げられ、その中のものを吐き出して空になり」（割れる章第3-4節）「大洋が沸きたち、溢れる時」（包み隠す者章第6節）「全く突然あなたがたにやって来る」（高壁章第187節）、審判の日です。最後の審判の日を思い起こ

させることで、死者が最初に創造された時のように復活すること、その行いによって勘定を問われることをも思い出させます。地震章の最初と最後のつながりに注目してください。「大地が激しく

揺れ、大地がその重荷を投げ出し、「かれ（大地）に何事が起ったのか。」と人が言う時。その日（大地は）凡ての消息を語ろう、あなたの主が啓示されたことを。その日、人びとは分別された集団となって（地中から）進み出て、かれらの

行ったことが示されるであろう。一微塵の重さでも、善を行った者はそれを見る。一微塵の重さでも、悪を行った者はそれを見る。」

要約するなら、地震をきっかけにしてもう一度私達の生き方を点検してみましよう。あらゆる瞬間に死に直面し、明日には神の御前に至るかのように日々を生きましよう。よいことも悪いことも、全ての行いの見返りを必ず受けることになるということを決して忘れないようにしましょう。

親愛なるムスリムの皆様。起こるであろう地震の前にも後にも用心すること、しかるべき立場にいる人の勧めや指示に従うことは、人間的な振舞いであると同時に、宗教的に必要なこととなります。用心はしもべがなすこと、定められるのはアッラーです。

これを機会とし、礼拝の後で被災者の人々のために寄付を集めます。どうか、できるかぎりの援助をお待ちしております。アッラーが私達をより大きな災いからお守りくださいますように。

